

平成 28 年 8 月 13 日

平成 28 年度

日本財団「海と日本プロジェクト」



つながる海の日プロジェクト2016 in 浜名湖

【 報告書 】

平成 28 年 8 月

つながる海の日プロジェクト in 浜名湖実行委員会

1. 事業の実績

■事業の名称

つながる海の日プロジェクト 2016in 浜名湖 ～海でつながる 山・まち・ひかり・音色～

■開催主旨

(1) 広く一般に対し、海の大切さや重要性を効果的に認識してもらう

目標

浜名湖地域特有の海、湖、山の関連性を伝えるプログラム、海に係る活動をしている人たちとの出会いとふれあいを通して、海の重要性を伝える。

(2) 日本の祝日「海の日」の周知、啓発に繋げる

目標

安全が確保された安全なレース水面を活用し、普段できない体験や出会いを通して、特別な日である事の認識を高める。

(3) 次世代を担う子供たちの海に対する好奇心を喚起する

目標

当事業を通して、子どもたちが実際に見る、聞く、食べる、体験する場面を多世代でつくりあげ、海への関心を高める。

(4) 事業を通じて、今までにない視点で海に触れたり感じたりする経験を提供する

目標

“海＝楽しい”というイメージや体験だけでなく、津波や水害、防災という視点での海のプログラムも行い、地震防災対策強化地域だからこそ「自分で自分の命を守る」というメッセージも強く伝える。

■開催日時

平成 28 年 7 月 23 日(土)、24 日(日) 両日とも 9:30～16:30

■会場

ボートレース浜名湖

静岡県湖西市新居町中之郷 3727-7

■主催

つながる海の日プロジェクト in 浜名湖実行委員会

【実行委員会】

	氏名	所属団体 役職
実行委員長	神谷 尚世	NPO 法人コラボりん湖西 代表理事
副委員長	袴田 康夫	浜名湖競艇企業団 宣伝課長
実行委員	柴田 和利	湖西市商工会 事務局長
〃	内山 安弘	新居町商工会 事務局長
〃	吉田 新吾	浜名商工会 事務局長
〃	柴田 茂樹	浜北商工会 事務局長
〃	山本 武志	奥浜名湖商工会 事務局長
〃	青島 守	天竜商工会 事務局長
〃	松下 育蔵	静岡県西部地域政策局 局長
〃	後藤 吉延	新居町観光協会 事務局
〃	三宅 淳子	NPO 法人奥浜名湖観光まちづくりねっと 事務局長

※オブザーバー: 荘司 哲(奥浜名湖観光協会 事務局長)

【事務局】

	氏名	所属団体 役職
事務局長	高田 真	浜名湖競艇企業団 宣伝課 課長補佐
	白井 幸倫	浜名湖競艇企業団 宣伝課 主査
	坂井 俊太	浜名湖競艇企業団 宣伝課 主任
	新村 智子	NPO 法人コラボりん湖西 事務局長

■後援

静岡県、浜松市、湖西市、静岡新聞社・静岡放送、
中日新聞東海本社、テレビ静岡、静岡朝日テレビ、静岡第一テレビ
浜松ケーブルテレビ、豊橋ケーブルネットワーク 他

■来場者総数 実績

①来場者数 6,539 名

(23日 2,593人・24日 3,946人名)

②商工会出店ブース参加数(延べ) 55ブース

③市民活動団体ブース参加数(延べ) 87ブース

④関係者・スタッフ・ボランティア数 78名

総勢 7,043名

【昨年度実績】

総勢 10,506名

① 来場者数 10,454名(23日 5,325名、24日 5,129名)

② 商工会出店ブース 38ブース

③ 市民活動団体ブース参加者数 37ブース

④ 関係者・スタッフ・ボランティア数 52名

目標来場者数: 2日間合計 12,000名以上(前年実績 10,454名※雨天)

■メディア掲載 実績

【新聞掲載】 合計 6件

中日新聞東海本社 4件

・「つながる海の日プロジェクト実行委員会開催」2016年4月13日

・「つながる海の日プロジェクト2016 in 浜名湖開催PR」2016年7月21日

・中日新聞東海本社「おでかけガイド」2016年7月22日

「つながる海の日プロジェクト in 浜名湖開催」2016年7月24日

静岡新聞 1件

・「つながる海の日プロジェクト in 浜名湖開催」2016年7月24日

中日スポーツ 1件

・「つながる海の日プロジェクト in 浜名湖開催」2016年7月24日

【テレビ放映・ラジオ放送】 合計 6件

テレビ静岡 「※番組名不明(バイク終了後)」(8/10 13:50頃)

静岡第一テレビ 「news every.サタデー」(7/23土 17:55～)

浜松ケーブルテレビ 2件

・「※地域の情報番組内」(6/20以降の毎週月曜、適時)

・「ウインディニュース さんちよく!」(7/23土 18:00～)

FMハロー「『PLUS YOUR DAY』内コーナー「つながるねっと」(6/27月 17:30～)

インターネットテレビ「遠州 WebTV」(7/11月 19:00～)

【雑誌掲載】 合計 1件

地元情報誌「浜松百選7月号」

※上記の他、出店(展)協力者や事業自体の賛同者等が、把握できない程、web上で独自の広報を実施してくれた。

2. 事業の概要

ボートレース浜名湖を会場に、〈直接的に海を発信するプログラム〉〈海以外の魅力プログラムから、海の好奇心へ繋げる〉事業を実施。

〈直接的に海を発信するプログラム〉では、「海を学ぶ」「海をキレイに」「海をあじわう」「海のスポーツ体験」「海でアート」の切り口でイベントやコーナーを設置、〈海以外の魅力プログラムから、海の好奇心へ繋げる〉事業では、「浜名湖観光」「防災・減災」「市民の力」「地域の力」の切り口で多様な力を結集。次世代を担う子どもたちに、海への好奇心を喚起し、様々な水に触れる機会を創造、そして多様な人とのつながりや関わりを持てる場を構築した。

〈直接的に海を発信するプログラム〉

■プログラム A ～海を学ぶ～

【概要】

- ・ 浜名湖や海に関係する事やモノについてスタンプラリー形式で体験しながら学んで行く。
- ・ 地元浜名湖や海での活動を専門とする NPO 団体から大人や子供に対しオリジナリティ溢れる視点で「海・陸」についてメッセージを発信。
- ・ 大学生の視点でオリジナリティ溢れる企画運営を主体的に実施してもらい、「海」に対する大切さや重要性をより高く認識した。

01 海と浜名湖チャレンジラリー

〔協力：静岡文化芸術大学学生、各プログラム実演団体〕



02 手作り葦舟の展示と写真展

〔協力：ひるまのながれぼし、浜名湖ボートクラブカナル〕



■プログラム B ～海をキレイに～

【概要】

- ・ 体験を通して、良い自然環境を維持していくこと、悪い自然環境を改善していく事の大切さを伝えた。

03 きれいな海にしよう！子どもダイバー体験

[協力: 認定 NPO 法人アンダーウォータースキルアップアカデミー]



■プログラム C ～海をあじわう～

【概要】

- ・ 海と湖が共存する浜名湖の環境や生物資源を実際に目で見て、肌で感じた。
- ・ 浜名湖や遠州灘の恵を味わい、改めて海の恵の魅力と重要性を認識した。

04 ギョッ！浜名湖・遠州灘の魚タッチプール

[協力: NPO 法人はまなこ里海の会]



05 浜名湖・遠州灘の大物魚釣りゲーム

[協力: NPO 法人はまなこ里海の会]



06 浜名湖・遠州灘の魚の写真展示

[協力: NPO 法人はまなこ里海の会]



07 三遠南信と浜名湖の美味しいものブース

[協力: 湖西市商工会、浜名商工会、新居町商工会、浜北商工会、天竜商工会、奥浜名湖商工会、
NPO 法人奥浜名湖観光まちづくりねっと]



【出店者リスト】

浜名っ娘クラブ、中末水産、あ・くれーぶ、大和屋、近江屋製菓(有)、かねこ屋、前田商店、たむたむ.com、野崎屋
しゅうまい屋四十六番、パピヨン湖西店、MONSTER'S MAM、すこやかファーム湖西、静岡やすま園、五條、
(有)静岡ラボ、デリシャス ド ブラジル、大悟、なるちゃん、こがねちゃん弁当、うなぎの仲右エ門、うまいら(株)
旭華園、新居町商工会女性部、らんの郷やまだ、鏡山製茶組合、「おあがりて」天龍農林業公社

08 マグロ解体ショー&無料試食会



■プログラムD ~海のスポーツ体験~

【概要】

- 老若男女が楽しめるよう、それぞれの年代が楽しめるバリエーションのある体験プログラムを実施。

09 モーターボート展示と乗艇撮影

[協力: ボートレース浜名湖]



10 ちびっこボート体験



11 ペアボート試乗体験

[協力: ボートレース浜名湖]



12 ゴムボート体験

[協力: マリンスポーツ財団、SEA NET 浜松ボランティアスタッフ]



13 ボートレース・デモンストレーション

[協力: ボートレース浜名湖]



14 ボートレーサー試験体験会

[協力: 一般社団法人モーターボート競走会]



15 ボートレーサーとのふれあい

[協力: ボートレース浜名湖、一般社団法人モーターボート競走会]



16 真夏のスケートリンク



■プログラム E ～海でアート～

【概要】

- ・ 海とアートと音楽を融合させ、新たな視点から海に触れたり感じたりした。
- ・ デジタル技術も活用し、陸でも室内でも海を感じさせる事で、次世代を担う子供たちの海に対する好奇心を喚起した。

17 みんなでポンポン☆魚たくワークショップ

[協力: 自遊画家ヤマモリコウジ(M.K.Y アート倶楽部)]



18「SEIJI YAMAUCHI LIVE PAINTING」&「DJ SHOW」



19「360度バーチャルボートレース体験」

[協力: ボートレース浜名湖]



〈海以外の魅力プログラムから、海の好奇心へ繋げる〉

■プログラム A ～浜名湖観光～

【概要】

- ・ 浜名湖観光圏一帯のトレンド、“海・川・山”などの観光の魅力を発信。
- ・ 特に、奥浜名湖を中心に平成29年大河ドラマ「女城主 井伊直虎」に対する注目度を活かした。

20 井伊直虎 PR ポロシャツ販売

[協力: 北区の地域福祉を創る会]



21「井伊の赤備え」の展示試着体験

[協力: 長山剛士、浜松歴女探検隊]



22 浜名湖発の旅をプロデュース

[協力: 遠鉄トラベル湖西営業所]



[協力: 遠州信用金庫]



■プログラム B ～防災・減災～

【概要】

- ・ 東日本大震災、熊本地震以降、地震災害に対する意識向上を図った。
- ・ 時間の経過と共に風化させないように、防災・減災について学びと体験の機会を与えた。

24 防災ブース「起震車体験」

[協力: 静岡県西部危機管理局]



25「365LIFE × 365BASE × SOTO=ワクワクアウトドア」

[協力: 365BASE]



26 盲導犬活動 PR ブース

[協力: 中部盲導犬協会]



■プログラム C ～市民の力～

【概要】

- ・ 浜名湖周辺と静岡県内で、日頃それぞれのフィールドで活躍している市民活動団体を一堂に集結。各々の活動のPRやアトラクションの実施をとおして地域と他団体との繋がりを高めながら、当事業に協力する同志として「海」に対する認識を高めた。

27 市民活動ブース

[団体名: やまねこ]



[団体名: スウ]



[団体名: レク楽の会]



[団体名: Green Cog]



28 ハンドメイドマーケット TEKERA

[協力: TEKERA]



29 blue pale ~ 蒼 ~

[協力: bleu pale]



30 <<23日>> オープニングステージ(神谷 実行委員長挨拶、中村 日本財団海洋基盤チームリーダー挨拶)



出演者: 新居吹奏楽団



[Shin Yamauchi プロデュース]

出演者: 伊藤真司



出演者: 橋本薫



出演者: ZIL



出演者: Spoon



31<<24日>> オープニングステージ

[協力:Bambi Pictures]

出演者: 琴紫会



出演者: 大木サキ



出演者: ERIKO



出演者: 銭だいこ



出演者: 湖西太鼓ゆめ昂



出演者：浜名湖キッズ響け！うたごえ ☆



■プログラム D ～地域のカ～

【概要】

- ・ 浜名湖周辺の各地域で、海・山・川など地場の魅力を発信する店舗や企業を一堂に集結。
- ・ 地域の魅力を相互に披露し、相互に刺激を与えながらチーム浜名湖として浜名湖全体のブランド力アップに繋げた。

32 浜名湖とつながる Kicoro の森ときこりの休日

[協力: Kicoro+静岡文化芸術大学学生]



33 柿の木♪みかんの木♪みんなの木

[協力: GAiAS]



34 遠州名物 餅投げ



3. 事業の総括

■ 浜名湖を取り巻く背景

① 海とつながる浜名湖の環境的課題

海とつながる浜名湖では、水の汚れ、護岸の緑や生態系が失われていること、水辺への眺望や親水の場が不足していることなどの課題があり、景観のみならず貴重な自然環境の保全の観点からも、これらを改善していく取組みが求められている。

② 住民参加のまちづくり

浜名湖周辺は、自然資源、物産、観光施設等、観光資源に恵まれた地域である。舘山寺温泉等を起点に、海・山が共存する浜名湖を体験するプログラムを盛り込みながら、浜松、湖西両市の観光活性化を図ることが求められている。そのためには、地域にある魅力を地域住民が認識し、住民もつながりを持って、主体となってまちづくりに関わり、情報等も共有・発信していくことが求められている。

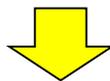
③ 防災的課題に対して

東日本大震災、熊本地震の経験。南海トラフ巨大地震の発生に備え防災意識が高まっているこの遠州灘地域では、行政の行う、避難棟や防波堤の設置などの防災対策事業だけでなく、子どもも大人も住民全員が自らの命を守るために何をしなければならないか、という意識を持つことが求められている。しかし、避難訓練や備蓄品を揃えることはできても、「減災」という活動は中々取り組むことが難しい。「減災」に対する意識向上も図るためには、映像や紙面だけでなく、実際の体験や体験者の話を聞く事が効果的であり、そうした活動を行う場が必要となっている。

④ 地域資源としてのボートレース場の活用

ボートレース浜名湖は、県内で唯一のボートレース場であるが、社会福祉に大きく貢献している公営競技であるにも関わらず、ギャンブルという側面が強いため、『市民に開かれた場であること』や『社会貢献しているイメージ』が理解されていないのが実情である。

ボートレースファン以外の多くの人に「交流」や「活動」の場として活用もらうことで、公共施設としての存在意義や価値を高め、ひいては周辺地域の財政や日本財団を通しての海事振興、社会福祉やスポーツ振興に“貢献している事”について知ってもらう機会を作る事が今後の課題としてあった。



2年目となる今回の事業も、ボートレース浜名湖を運営する浜名湖競艇企業団と、市民活動の中間支援組織として、県西部だけでなく県全域まで活動を広げる NPO 法人コラボりん湖西が中心となった実行委員会が担い、県や市など行政、地元企業や商工会、観光協会、地元大学の“産学官”、そして様々な得意分野を持つ県内の市民活動団体や地域住民が協働で「つながる海の日プロジェクト in 浜名湖」を実施した。

■事業を実施して

①ボートレース場の新たな可能性を実感

この事業を通して、今まで連携した事のない市民活動団体や企業、地域行政と一緒に運営をしていくことで、ボートレース場を“地域の交流の場”としての価値や存在意義を示すことができた。昨年のように雨天でも、また今年のように夏の暑さを感じながらも、屋根のあるエリアや空調のある室内エリアを活かし、1日快適に過ごせる会場を提供できるのが大きな強みである。また、これまでボートレース場と接点が無かった年齢層や地域へ、地方財政への寄与や日本財団の活動を通じた社会福祉貢献について広報し、新たな協力者を得るきっかけとなった。



②市民活動団体として活動の広がりを実感

各団体がこれまでの地域や世代のフィールドを超え再集結したことで、昨年以上の連携・協力・絆を生み、今後の事業展開に新たな広がりや深まりを実感することができた。

また、静岡県東部から西部(浜名湖)へ、山から海へなど、地元以外での広報や活動場所を求めている市民活動団体がたくさんあり、そのような市民活動団体の活動場所を提供したりすることにより、それぞれの団体への理解が深まり、協力者の増加に繋がった。



③企業、商工業者としての社会貢献

近年、社会貢献活動に積極的に取り組んでいる企業や商工業者等も、従来と同じような活動ではなく、新たな活動を求めていた。今回も当事業を通じ、これまでになかった社会貢献活動を実施することができ、今後の新たなつながりと展開を生む機会となった。



④地域行政としての関わり

静岡県は、浜名湖周辺の連携・協力を強化し様々な事業展開を図っているが、各行政区外の連携は難しい。今回、事業の実行委員、協力者として静岡県職員が関わった事で、広報や運営を通し、浜名湖周辺、静岡県西部地区、静岡県が一体となって目標へ取り組む機会となった。

また、各地域の自治会に属する住民、学校に属する子どもたちに協働を呼びかけ、参加させる機会を提供できた。



⑤大学の地域連携実践演習

地元の大学が昨年度から行なっている地域連携実践演習と絡ませることで、学生が参加しやすくなるだけでなく、より高度な視点や実践のできる次世代の育成ができた。事業に対して、「参加者」ではなく主催者側の「当事者」として主体的に参画できるような場を昨年以上に作り上げる事が出来た。



■今後の展望

昨年同様に、改めてこの日本財団が行なう海と日本プロジェクトの一環で実施している「つながる海の日プロジェクト in 浜名湖」は、単年ではなく複数年継続実施してこそ、「海の日」の意義の認識を深め、多くの方々が海への好奇心を持ち、自らが行動を起こす側となり、また新たな人たちの参画へつなげていく環境を作りあげられると感じた。

特に今回は、集客力の高いプログラムよりも、協力者・来場者が「海」に対する認識を“しっかり”と深める、また当事業を通して地域が一体となるプログラムを実施することにポイントを置いた。

数値上では見えない効果や実感があったが、最終年度の開催では「海と日本」と「浜名湖とヒト」が一つに繋がる事業の実施を目指したい。

昨年度(初年度・平成 27 年度)

- ・ 昨年度は、ボートレース場で行う「海の日」サポート事業に参加し、来場させる動機を強化し、「海」というキーワードでつながる団体や人の協力を集め、事業の主旨を携わった協力者全員に共通認識を与えた。
⇒来場者はイベントとして捉えるかもしれないが、力者(運営スタッフ、出展者、出店者)は共通意識を持つため、少なくとも関わる協力者には「海の日」を強く認識できた。
- ・ 当事業の連携を通して、団体同士の連携、ボートレース場との連携が実現した。
⇒当事業の経験で得た体験や連携先との出会いにより、各団体でも海を繋げたプログラムを取り入れ、広めた。

今年度(平成 28 年度)

- ・ 初年度の実績を踏まえ、関連する協力団体や企業の拡大。行政区に捉われない行政等の意欲的な参画を促した。
⇒静岡県職員、湖西市長、浜松副市長をはじめ市役所や商工会職員。その他企業、団体の関係者も来場していた。
- ・ 集客だけでなく、本質を捉えたプログラムの更なる充実による、初年度に得た「海」に対する知識を積み重ねた。
⇒浅く関わった人数でなく、深く伝える事が出来た人数は昨年以上であった。
- ・ 地域の子どもたちも来場者としてだけでなく、参画の機会をつくり、同世代の子供たち同士が海に対する想いを継承した。
⇒プログラムのお手伝い、実演者としてステージ披露など関わる場がより広まった。
- ・ 地元大学生が自主的にプログラムの企画運営を行い地域の子供たち、また地域の大人たちに「海」に対する新たな興味と価値観を与え、社会貢献の活動する場を提供した。
⇒協力者ではなく事業の「当事者」として主体性を持って、様々なプログラムや運営に携わった。

来年度(最終年度・平成 29 年度)

- ・ 3年間の集大成として、ボートレース浜名湖の「海の日」サポートプログラム事業に対して、県外からの協力者や参加者が積極的に集まる活動を実施する。
- ・ 海と湖と山がある、浜名湖しかできない「海の日」事業を完成させる。